

平成19年度
東オホーツクシニックバイウェイ
活動報告

- O. 地域活動報告の概要
 - 1. ルート運営活動計画に関する地域の報告
 - 2. ルート運営活動計画に関する行政の報告
 - 3. 地域及び行政の運営に関する報告
 - 4. 審査委員会意見に関する報告

0-地域活動報告の概要

- ・地域活動に関する報告(東オホーツクシニッカバイウェイ)

ルート名称:東オホーツクシニッカバイウェイ	報告者:東オホーツクシニッカバイウェイ 代表 高谷 弘志	報告年月:2008/3/28
-----------------------	------------------------------	----------------

★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み

ルート(エリア)運営計画基本方針	ルート(エリア)運営計画活動内容	活動No	平成18年度 地域活動(総括)	
景観形成	オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる (美しい沿道の保全・啓蒙)	小清水原生花園、以久科原生花園の保全 (ネナシカズラの除去等) 沿道の一斉清掃活動の実施 沿道の植栽活動の実施	H - 1 H - 2・3・4・5 H - 6・7・8・9・10・11	「知床」の玄関口として、おもてなしの心をもった植栽・清掃活動を実施。これらの活動は規模が拡大している傾向になってきている。また、自治体をはじめとする活動団体以外の機関とも連携も行っており、今後も継続した取り組みとしていくためのサポート及び活動のPRをかねたエリア・ルートでの活発な連携や情報発信などを推進していく。
	網走湖周辺の水芭蕉の保全活動 花を見る木道づくりの推進 東オホーツクは花カレンダーの作成 東オホーツク花シンポジウムの実施 ★女満別湖畔清掃 ★藻琴川の清掃	H - 12 H - 13 H - 14 H - 22		
	景観探しツアーの実施 東オホーツクフォトコンテストの実施 ビューポイントの再発見及び創出と ビューポイントマップづくり ビューポイントパーキングの拡充と保全 ★廃屋が景観に及ぼす影響調査	H - 15 H - 16・17・18 H - 15 H - 19		
	シニックデッキの創出 流氷茶屋、湖畔茶屋、山の茶屋の創出 サケ・サクラマスを見れる拠点の創出や清掃	H - 20 H - 21 H - 22		
	東オホーツクウォーキングルートの選定とフトバスづくり ホーストレッキングルートの選定 エコツアーや連携や自然探索ツアーの実施	H - 23 H - 24 H - 25・26・27		
	馬やバルーン景観の研究 東オホーツクトラベルの研究 東オホーツク観光塾の創出 東オホーツクエリアガイドの育成と仕組みづくり ★2007観光ホスピタリティin美幌 ★小清水原生花園フラワーガイド事業	H - 24 H - 28 H - 29 H - 30		
	地域資源の洗い出しマップの作成とバス発掘ツアーの実施 地域特産物の販売やPR活動 先住民族フォーラムの実施	H - 31 H - 32・33・34・35		
観光振興	風を感じさせるマグネットポイントの創出	シニックデッキの創出 流氷茶屋、湖畔茶屋、山の茶屋の創出 サケ・サクラマスを見れる拠点の創出や清掃	H - 20 H - 21 H - 22	お勧め景観ポイントや東オホーツクの自然を活かした活動を実施。今後も魅力的なメニュー提供を行うため、シニック活動への参加を行うなど地域との交流を深める。また、好評であった連携活動は、継続的な実施へ向け運営体制等を検討するとともに、地元の参加が多くなるような情報発信等、効果的な連携のかたちを模索していく。
	東オホーツクウォーキングルートの選定とフトバスづくり ホーストレッキングルートの選定 エコツアーや連携や自然探索ツアーの実施	H - 23 H - 24 H - 25・26・27		
	馬やバルーン景観の研究 東オホーツクトラベルの研究 東オホーツク観光塾の創出 東オホーツクエリアガイドの育成と仕組みづくり ★2007観光ホスピタリティin美幌 ★小清水原生花園フラワーガイド事業	H - 24 H - 28 H - 29 H - 30		
	地域資源の洗い出しマップの作成とバス発掘ツアーの実施 地域特産物の販売やPR活動 先住民族フォーラムの実施	H - 31 H - 32・33・34・35		
農・水・林・地域文化資源の発掘と連携	農・水・林・地域文化資源の発掘と連携	地域資源の洗い出しマップの作成とバス発掘ツアーの実施 地域特産物の販売やPR活動 先住民族フォーラムの実施	H - 31 H - 32・33・34・35	

ルート名称:東オホーツクシニックバイウェイ	報告者:東オホーツクシニックバイウェイ 代表 高谷 弘志	報告年月:2008/3/28	
★:ルート(エリア)運営活動計画に位置づけられた活動内容以外に実現した取り組み			
ルート(エリア)運営計画基本方針	ルート(エリア)運営計画活動内容	活動No	平成18年度 地域活動(総括)
地域づくり 楽しみの創出 (東オホーツク文化・ライフの追求)	植林事業等の実施	H - 36・37	各地域ごとに、歴史、自然、食など地域資源の保全・活用の取り組みを進めており、今後は、エリア・ルートの魅力発掘と情報発信を行う。また、これらの取り組みを含め、地域ヘシニックバイウェイの理解や認知の深まるような活動を企画・立案して取り組んでいく。
	温泉情報マップの作成	H - 15	
	文化施設等との連携による文化発信		
	フットパスづくり		
	オホーツクバーボンの研究		
	外国人交流の実施と誘致	H - 38	
	オホーツクのオリジナル食メニューの研究		
	★ウォーキングコースの看板整備	H - 39	
	★美幌峠牧場内ウォーク	H - 40	
地域連携による地域情報の発信	活動団体向けニュースペーパーの発行	H - 41	各地域ごとに、歴史、自然、食など地域資源の保全・活用の取り組みを進めており、今後は、エリア・ルートの魅力発掘と情報発信を行う。また、これらの取り組みを含め、地域ヘシニックバイウェイの理解や認知の深まるような活動を企画・立案して取り組んでいく。
	HPの創出と各町観光情報とのリンク	H - 42・43	
	★東オホーツクシニックバイウェイフォーラム	H 44	
	★のんびり踊ってやったるDAY盆踊りカーニバル	H 45	
	★版画カレンダーの作成	H 46	
	★エキノコックス撲滅作戦	H - 47	

東オホーツクシニックバイウェイ

H-1

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『小清水原生花園ゴミ拾い事業』

【内 容】ゴミ清掃活動を行い小清水原生花園の来訪者へのイメージアップを図ることを目的として、環境美化事業として小清水町観光協会、小清水町観光ボランティアガイド協議会、浜小清水連合自治会が協力して小清水原生花園周辺のゴミ拾いを行った。

【日 時】平成19年4月14日(土) 10:00 ~ 12:00

【場 所】国道244号線、小清水町原生花園沿道

【主 催】小清水町観光協会、小清水町観光ボランティアガイド協議会、浜小清水連合自治会

【協 力】地域自治会、小清水町観光協会、売店出店者、一般町民

【参加人数】約40名



▲説明を熱心に聞く参加者



▲国道沿いの清掃様子

東オホーツクシニックバイウェイ

H-2

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『網走湖クリーン作戦』

【内 容】道東観光の拠点網走の玄関口である網走湖沿いの国道39号線周辺の清掃を行い観光客へのホスピタリティ及び網走湖周辺の景観向上を図ることを目的として、呼人探鳥遊歩道の入口(ミズバショウ群生地)から大曲の駐車場(サイクリングロード入口)までの清掃を行った。

【日 時】平成19年4月28日(土)

【場 所】国道39号線(サイクリングターミナル入口～呼人水芭蕉群落)

【主 催】網走市観光協会

【参加人数】160名



▲清掃説明を聞く参加者



▲国道沿いの清掃様子

東オホーツクシニックバイウェイ

H-3

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『道道斜里網走通り環境美化運動』

【内 容】斜里町の中心市街地商店街のイメージアップ及びクリーンな街づくりの実践をはかるとともに中心街の環境美化やマナーの大切さに気づいていただくことを目的に清掃活動を行った。

【日 時】平成19年10月14日(日) 9:00~

【場 所】道道斜里網走通り(斜里町港町16番地~本町18番地)

【主 催】斜里町商工会、斜里町商工会青年部、斜里町商工会女性部

【参加人数】18名



▲商店街周辺の清掃の様子



▲収拾したゴミの分別

東オホーツクシニックバイウェイ

H-4

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『清里地区沿道清掃』

【内 容】東オホーツクシニックバイウェイ活動団体の連携強化及び、景観保全への意識啓発を目的として、清里町で参加している活動団体を中心となり、清里町市街(道道摩周湖斜里線)の空き缶拾いと道路清掃を行った

【日 時】5月12日(土) 8:30 ~ 12:00

【場 所】清里町上斜里~清里町札弦 (道道摩周湖斜里線)

【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議

【協 力】清里町花と緑の交流まちづくり委員会、清里町商工会、清里町観光協会、清里ネイチャーガイド協会、上斜里フワーロード推進協議会、清里町ウォーキング同好会、清里町、清里町建設業協会、清里ロータリークラブ

【参加人数】151名



▲沿道の清掃様子



▲沿道の清掃様子

東オホーツクシニックバイウェイ

H-5

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『網走湖清掃活動』

【内 容】東オホーツクシニックバイウェイ活動団体の連携強化及び、環境保全への意識啓発を目的として、網走湖 女満別湖畔キャンプ場周辺のゴミを収拾した。

【日 時】 平成19年9月29日(土) 10:00~11:30

【場 所】 網走湖 女満別湖畔キャンプ場周辺

【主 催】 中村工務店野外活動俱楽部、美幌CBC

【参加人数】 14名



▲清掃状況



▲清掃状況

東オホーツクシニックバイウェイ

H-6

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『ウトロ沿道に花を植えよう』

【内 容】しれとこうとう・フォーラム21は、ウトロ地域のまちづくりを基本テーマに、この地域に関係する様々な話題や課題に対して業種、世代、職業、立場が違う人々が同じテーブルにつき、よりよいウトロ地域につながる活動を行うことを目的として、2日間にわたり一般国道334号線斜里町ウトロ市街地の歩道植樹帯、約1,200mにボランティア・サポート・プログラムを使用した花植えを実施した。

【日 時】 平成19年6月9、10日

【場 所】 国道334号線斜里町ウトロ市街(山本アパート～神社山交差点周辺)

【主 催】 しれとこウトロ・フォーラム21、うとろナチュラルクラブ

【協 力】 網走開発建設部、斜里町役場、斜里建設、ユートピア知床、ウトロ自治会、ホテル関係者、ガイド関係者、販売店、民宿関係者、一般町民

【参加人数】 130名



▲花苗の運搬



▲作業状況



▲沿道状況

東オホーツクシニックバイウェイ

H-7

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『花と緑と交流のまちづくり事業』

【内 容】花と緑、美しい豊かな自然、農村景観を生かしたまちづくりを行う。
清里町の町民(会員)が周囲の環境を再評価し、景観づくりに積極的に関わるとともに各方面からの表彰を受けている。

- ・平成18年過疎地域自立活性化優良事例表彰 総務大臣賞
- ・平成19年緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰受賞

【日 時】平成19年4月1日～平成20年3月31日
【場 所】清里町内一円
【主 催】清里町花と緑と交流のまちづくり委員会
【参加人数】5,000名



▲沿道の植栽状況



▲花に囲まれたコミット

東オホーツクシニックバイウェイ

H-8

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『平成19年コスモスロードの植栽』

【内 容】清里町上斜里地区の道道摩周湖斜里線の沿道約3kmにわたってコスモスを植栽している。
今年は国道334号の清里町と斜里町の境界付近から、600mに植栽、秋の風物詩としてテレビや新聞などでも取り上げられ、日本百名山のひとつでもある斜里岳と沿道にゆれるコスモスのコントラストは、一見の価値ある景観となっている。

【日 時】平成19年5～10月
【場 所】清里町斜里地区 道道摩周湖斜里線
【主 催】上斜里フラワーロード推進協議会
【参加人数】約20名



▲道道摩周湖斜里線沿道



▲沿道のコスモス

東オホーツクシニックバイウェイ

H-9

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『じゃがいも街道 美しい沿道の保全・啓蒙』

【内 容】活動団体の連携強化を基に、豊かな土地と美しい景観を形成保全し、子どもたちに誇れるふるさとを引き継いでいくことを目的として、シニックバイウェイルート上のじゃがいも街道の緑のネットワークづくりとしてフラワーガーデンの造成を行った。

【日 時】平成19年6月11日(月)、平成19年6月12日(火)、平成19年10月26日(金)

【場 所】じゃがいも街道終点(小清水町1区桜が丘)

【主 催】NPO法人 グラウンドワークこしみず

【協 力】小清水森へ導く会、花苗生産者

【参加人数】13名



▲築山造成状況



▲フラワーガーデン完成直後

東オホーツクシニックバイウェイ

H-10

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『ノンキー花い～っぱい地域景観形成』

【内 容】美しい景観形成及び活力ある地域づくりを主眼として、空地を利用した花壇づくり(植栽活動)に取り組み、沿道や道路周辺の景観の向上を図った。

【日 時】平成19年6月3日(日) 9:00~14:00

【場 所】大空町東藻琴商工会館横(中央区空地)

【主 催】大空町東藻琴商工会

【協 力】当商工会青年部、女性部、中央自治会

【参加人数】12名



▲花壇整備直後(6/3)



▲開花状況6/17

東オホーツクシニックバイウェイ

H-11

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『北海道デステイションキャンパーソへの参加』

【内 容】「北海道デステイションキャンペーン」は、「花」をメインに「食」「体験」といった北海道観光の魅力を広く全国へ発信し、北海道ブランドの醸成と観光誘致促進を図ることを目的として、6月下旬～8月末までの期間、3年生の選択授業の一環として、網走駅周辺をプランターに植えた花で飾った。期間中は、4, 5回の花の手入れを行った。

【日 時】平成19年6月下旬～8月下旬

【場 所】網走駅周辺

【主 催】北海道東藻琴高等学校

【参加人数】21名



▲プランター設置の様子



▲花の手入れの様子

東オホーツクシニックバイウェイ

H-12

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『桜の名所づくりと概存の植栽地の維持管理』

【内 容】愛する美幌の地に日本一の桜花匂う里を築き、愛する郷土を1万本の桜で埋め尽くし、日本列島の春、最後の花見を楽しめる桜の里「美幌町」を築く事を目的として、「みどりの村」に150本の桜を植樹した。5月下旬に魚無川の清掃支援参加。10月下旬に概植樹地維持管理(下草刈・小径木伐採・追肥など)。

【日 時】平成19年5月13日(日)

【場 所】美幌町みどりの村森林公園

【主 催】桜の名所を創る会

【参加人数】67人



▲植樹状況



▲概植樹の維持管理状況

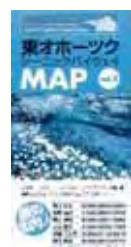
東オホーツクシニックバイウェイ

H-13

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『シニックバイウェイMAP Vol.5の作成』

【内 容】東オホーツクの魅力を多くの方に広めるため「美しい景観・美味しい店・癒しの温泉」情報を発信し、東オホーツクのファンづくりを目指す。
・東オホーツク地域の広域的な情報をマップで紹介
(各ルートのシニックポイント・情報拠点・ビューポイントパーキング・シニックテッキ等)
・東オホーツク地域の花カレンダー
・お勧めのグルメ情報、天然温泉の紹介
【日 時】平成19年11月～平成20年3月
【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議
【作成部数】65,000部



▲シニックバイウェイMAP 表面



▲シニックバイウェイMAP 裏面

東オホーツクシニックバイウェイ

H-14

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『女満別湖畔清掃』

【内 容】網走湖及び女満別周辺地域が持つ自然、景観、文化などの様々な地域資源の価値を結び、それらを生かした観光まちづくり事業を推進し、観光の振興を通して、本地域の活性化に寄与することを目的として、女満別湖畔に来て頂く観光客、地元の皆さんのために、女満別湖畔の清掃(環境保全)を行った。10トントラック8台分の流木、ゴミを集め積み搬出した。

【日 時】平成19年4月25日(水)6:00～7:00(約1時間)

【場 所】艇庫(ホテル山水様裏)～水芭蕉群生地

【主 催】NPO法人 めまんべつ観光協会

【参加人数】延べ250人



▲水辺付近の清掃



▲清掃状況

東オホーツクシニックバイウェイ

H-15

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『冬の景観探しバスツアー』

【内 容】冬のビューポイントの発掘と景観に関する情報を東オホーツクシニックバイウェイ連携会議のメンバーで共有するために皆様とバスに乗って冬のビューポイントを見学し。見学終了後は、意見交換も行った。

【日 時】平成20年2月2日(土)

【場 所】東オホーツク一円

【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議

【参加人数】20名



▲バスの中の様子



▲見学の様子



▲冬の景観

東オホーツクシニックバイウェイ

H-16

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『東オホーツク撮影ツアー』

【内 容】東オホーツク撮影ツアーが開催された。北見や釧路、弟子屈町などから十一人の参加があった。開催日の天候は「雪」でしたが、雪が降って映える景観をポイントに選び、参加者の皆さんに冬の東オホーツクの撮影を行った。

【日 時】平成20年2月16日(土)、17日(日)

【場 所】大空町、小清水町、斜里町ウトロ 他

【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議

【協 力】オホーツクグラフーメンバーズ

【参加人数】11名



▲『さくらの滝』の撮影状況



▲藻琴山の樹氷

東オホーツクシニックバイウェイ

H-17

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『第3回東オホーツクシニックバイウェイフォトコンテスト』

【目的】東オホーツクの風景・人物など地域の特色ある写真を広く募集し、写真による交流人口の増加と文化の向上、シニックバイウェイ事業への積極的な活動へつなげる。

【内容】・フォトコンテストの写真募集：平成19年8月～平成20年2月末

・応募数：441点

・審査日程：平成20年3月6日(木)

【日 時】平成19年8月～平成20年3月

【場 所】東オホーツクシニックバイウェイルート内

【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議

【参加人数】審査時：20名



▲案内チラシ



▲写真の選定



▲審査状況

東オホーツクシニックバイウェイ

H-18

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『第2回東オホーツクシニックバイウェイフォトコンテスト入賞作品写真展』

【内容】東オホーツクの風景・人物など地域の特色ある写真を広く募集し、写真による交流人口の増加と文化の向上、シニックバイウェイ事業への積極的な活動へつなげるために第2回東オホーツクシニックバイウェイフォトコンテストで入賞した作品を網走市、大空町、斜里町、清里町、小清水町の各会場で展覧した。展示会では地域の多くの皆様に東オホーツクの魅力を再発見、来訪者にも好評だった。

【日 時】平成19年4月28日～平成20年3月中旬

【場 所】大空町道の駅爛ハツの丘めんべつ、札幌市ぼくでんギャラリー、小清水町原生花園インフォメーションセンター、清里商工会コミット、網走市エコセンター、北見NHKギャラリー、弟子屈町川湯エコミュージアム、峠の湯びほろ、道の駅しゃり 他

【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議

【参加人数】延べ500人以上



▲写真展示会場(道の駅メルヘンの丘)



▲写真展示会場(道の駅メルヘンの丘)

東オホーツクシニックバイウェイ

H-19

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『廃屋が景観に及ぼす影響調査』

【内 容】廃屋には、景観に溶け込んでいるもの、損なっているものがある。いずれも主觀的な価値観によって、判断されることがしばしば見受けられることがある。しかしながら、廃屋が景観に及ぼす影響などを客觀的評価等を行ったものは、極めて少ない。そこで、本件では、東オホーツクシニックバイウェイステージ上にある廃屋数や周辺の地域資源の把握を行うとともに地域の方々及び観光客の視点による廃屋の印象などを調査し、廃屋の活用方法に関する検討を行った。

- ①ルートに存在する廃屋の全体数を把握する
- ②実地調査:目視による状態報告と地域の識者、高齢者からの逸話聴取
- ③廃屋の近隣住民、地域の役場から聴取

【日 時】平成19年7月～平成20年2月

【場 所】東オホーツクシニックバイウェイ各ステージ沿線周辺

【主 催】NPO法人 イッショ移住オホーツク、中村工務店野外活動俱楽部

【参加人数】8名



▲目視による現状調査



▲東オホーツクの廃屋の状況(散布図)

東オホーツクシニックバイウェイ

H-20

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『シニックデッキの設置及び補修』

【内 容】景観の良い駐車スペースのあるポイントに、シニックデッキを設置し旅行者などがゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東オホーツク地域全体の景観PRをはじめ地域との交流が進んで行く。また、農産物等の特産品販売等、コミュニティビジネスの創出の可能性も高まる。更に道路利用者のオアシスとして交通安全に寄与する。

【日 時】平成19年5～6月

【場 所】網走原生牧場観光センター、もことやま山荘、じゃかいも街道、清岳荘、清里町コミット、季風クラブ知床、メルヘンの丘ビューポイントパーキング、峠の湯びほろ

【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議



▲シニックデッキ(峠の湯びほろ)



▲シニックデッキ(清里町コミット)

東オホーツクシニックバイウェイ

H-21

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『東オホーツクシニックバイウェイシニックテッキの利活用』

【内 容】東オホーツクシニックバイウェイルート内に点在するシニックテッキの利活用を目的として、地域の特産物や地域固有の情報を詰込んだチラシを提供し、景観の優れた沿道にシニックテッキ及び仮設の茶屋を設置し、地元新鮮野菜の販売などを行い、旅行者、地域の方々との交流の拡大を行った。

【日 時】平成19年9月9日(日) 10:00~15:00

【場 所】大空・清里・小清水・美幌の4エリア各シニックテッキ

【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議

【参加人数】延べ600名



▲アンケート調査の状況



▲仮設茶屋による野菜の販売

東オホーツクシニックバイウェイ

H-22

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『藻琴川清掃活動』

【内 容】ふるさとの川であるもこと川は、サケ・マス増殖の親魚捕獲用の「やな」もない天然産卵をする貴重な河川であり、重要な地域資源である。そこで、本報告では、藻琴川の保全を目的として、16人のボランティアで藻琴川流域(JA 牧場入口～伊藤昭八牧草地入口区間、約1.5km)の清掃(ゴミ拾い)を行った。

【日 時】平成19年8月6日(月) 8:00~12:30

【場 所】藻琴川支流山園川清掃場所(JA 牧場入口～伊藤昭八牧草地入口区間、約1.5km)

【主 催】藻琴川を美しくする会

【協 力】東藻琴観光協会、東藻琴未広自治会

【参加人数】45名



▲藻琴川流域清掃活動出陣式



▲清掃の様子

東オホーツクシニックバイウェイ

H-23

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『生物生産学体験学習』

【内 容】学生たちとトレール周辺の人工林を拠点にして、どのようにして木々を取り扱えば、様々な生き物が暮らせる豊かな森に誘導していくかを体験学習(講義)を行った。今回は授業の一環でもあり、市民の参加はなかった。

【日 時】平成19年10月13日(土) 10:00~15:00

【場 所】東京農業大学敷地内オホーツク・ファイン・トレール

【主 催】東京農業大学生物産業学部

【参加人数】生物生産学体験学習120名



▲オホーツク・ファイン・トレール概要



▲オホーツク・ファイン・トレール散策

東オホーツクシニックバイウェイ

H-24

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『オホーツクホーストレッキングin網走2007』

【内 容】オホーツクホーストレッキングin網走2007は、アウトドアスポーツとして、網走管内における農村地域を中心とする緑豊かな自然空間や地域資産の有効活用と施設の整備、活動組織への支援等の方策を検討し、ホーストレッキングの普及および振興を図り、都市住民との交流促進を通して農村地域の活性化並びにオホーツクの観光交流に寄与することを目的として、2日間開催し、初心者コース・上級者コースを設定し、参加者の希望に合わせた乗馬体験会を実施した。また、前夜祭は野外バーベキューを開催し、参加者による交流も行った。

【日 時】平成19年6月30日(土) 13:00~平成19年7月1日(日) 8:00~12:00

【場 所】網走原生牧場周辺

【主 催】オホーツクホーストレッキング研究会

【参加人数】20名



▲乗馬の様子



▲トレッキングの状況

東オホーツクシニックバイウェイ

H-25

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『冬の「神の子池」かんじきウォーキング』

【内 容】地域の関係活動団体が連携し、道道1115号線、摩周湖斜里線入り口から神の子池まで、かんじきウォーキングを実施する。この事業により地の観光資源開発と今後の体験観光の創出を目指す。神の子池までのおよそ2kmを「かんじき」でウォーキングするイベント。

道中はガイドを行い、終了後は、地域の食材を生かした昼食と天然温泉で疲れを癒した。

【日 時】平成20年2月17日(日)

【場 所】清里町「神の子池」までの往復4km

【主 催】清里町ウィンターフェスティバル実行委員会、東オホーツクガイド協会

【参加人数】延べ70名



▲かんじきで歩く参加者



▲白い雪の中の幻想的な神の子池

東オホーツクシニックバイウェイ

H-26

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『斜里岳山麓原生林の森の中ツリーアイグ (木登り) を楽しもう』

【内 容】地域の新しい体験型イベントを開催し、今後の体験型観光の創出を図る。

ツリーアイグ(木登り)は専用器具を使用し、大人から子供まで木登りを体験できる。

研修を終了したインストラクターを中心に、高所から鳥たちの目線で参加者を楽しませた。

【日 時】平成19年9月30日(日)

【場 所】斜里岳山小屋「清岳荘」(清里町江南872番地)

【主 催】NPO法人きよさと観光協会、清里町商工会

【参加人数】 15名



▲インストラクターによる指導



▲ツリーアイグを楽しむ参加者

東オホーツクシニックバイウェイ

H-27

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『知床ファンタジア2008』

【内 容】昭和33年2月に実際に知床の夜空を赤く染めたオーロラ。それを再現しようと、レーザー光線を駆使し、1987年にこのイベントが始まり今年の2008年開催で22回目の開催となりました。ダイナミックな音響とレーザー光線が織りなす幻想空間を体感させてくれる。

当実行委員会では会場出口で感動証明書を発行、帰り道には甘酒のサービスもあります。

【日 時】平成20年2月5日(火)～3月22日(土) 20:00～20:20(毎夜)

【場 所】知床ウトロ温泉特設会場

【主 催】知床ファンタジア実行委員会(斜里町・知床斜里町観光協会・斜里町商工会・ウトロ自治会・知床温泉旅館協同組合)

【参加人数】延べ80,000人(観覧料: ¥300)



▲ダイナミックなレーザー光線



▲幻想的な空間

東オホーツクシニックバイウェイ

H-28

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『OKI TONKORI 「MOUNTAIN-HIGH TOUR'07」の開催』

【内 容】アイヌ民族の伝統楽器トンコリの演奏を聴き、音楽を通じて北海道に先住していたアイヌ民族の歴史や文化に触れることを目的として、トンコリ演奏の第一人者であるOKI(加納沖)によるソロ・トンコリライブを行った。

【協 力】チカルスタジオ、しれとこくらぶ、NPO法人 知床ナチュラリスト協会

【日 時】平成19年5月1日(火)18:00～21:30

【場 所】しれとこくらぶ(斜里町文光町)

【主 催】NPO法人 知床ナチュラリスト協会

【参加人数】45名



▲網走呼人チャシツアーの様子(平成19年11月)



▲OKIのトンコリライブ

東オホーツクシニックバイウェイ

H-29

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『2007観光ボランティアin美幌』

【内 容】全道の観光ボランティアガイドの方々が一同に集い、それぞれの地域紹介や活動を通して、観光客に対しどのようにおもてなしの心を伝えているか、工夫している事例等の情報交換を行い、各地域の活動にいかしていくことで、北海道全体の観光振興に寄与していくことを目的として、東京農業大学生物産業学部の増子教授を招き、「エゾシカから学ぶ環境共生と地域産業の連携」と題した基調講演を行い、その後3つに分かれて開催した分科会では、講師として東オホーツクシニックバイウェイ連携会議から奥山事務局長を招き、「道が織りなす地域景観づくりと観光ボランティア」と題した約1時間の講演を行った。

【日 時】平成19年10月15日(月)～16日(火)

【場 所】美幌町 美幌グランドホテル

【主 催】北海道ボランティア連絡協議会、美幌観光ボランティアガイドの会

【参加人数】延べ210名



▲奥山事務局長の講演



▲会場の参加者たち

東オホーツクシニックバイウェイ

H-30

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『2007小清水原生花園フラワーガイド事業』

【内 容】原生花園を訪れる観光客などに原生花園の魅力と、夏の北海道の自然公園や季節の花々の素晴しさを伝え、思い出に残るような旅、また訪れたいと感じてもらえるよう心がけてフラワーガイドを行うことを目的として、小清水原生花園来園者に対し、常時3名体制で、一緒に遊歩道を歩きながらフラワーガイドを行った。

【日 時】6月15日～7月15日 10：00～15：00

【場 所】小清水原生花園展覧ヶ丘展望台

【主 催】小清水町観光ボランティアガイド協議会

【参加人数】ボランティアガイド17名（延べ171名）



▲ガイドの説明を熱心に聞く来園者



▲ガイド状況

東オホーツクシニックバイウェイ

H-31

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『大空タウンマップの作成』

【内 容】地域づくりに対する一層の気運の高揚と街の魅力を地域の内外に発信・PRすることを目的として、大空町女満別商工会と大空町東藻琴商工会が連携して、地域の情報を盛り込んだタウンマップを作成した。

【日 時】平成19年度中

【場 所】配布箇所：道の駅メルヘンの丘、朝日ヶ丘公園、ひがしもこと乳酪館、芝桜公園 他

【主 催】大空町女満別商工会、大空町東藻琴商工会

【配 布 数】30,000部



▲大空町女満別タウンマップ



▲大空町東藻琴タウンマップ

東オホーツクシニックバイウェイ

H-32

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『特産品の開発及び販売』

【内 容】美幌観光物産協会の手づくりみそを使った「おかずみそ」が特産品として開発した。このおかずみそは、当協会が製造・販売する美幌産大豆100%の手づくりみそ「まめ美人」をベースに使い、「たまねぎ」「しいたけ」「ゆず」「鉄火」「肉」の5種類の味に加え、「行者にんにく」「ふきのとう」がさらに新登場した。ともに道内産具材を使ったこだわりの味となっており、ごはんやおにぎりはもちろん、おでんや野菜炒めの調味料としても使用できる。

【日 時】平成18年度～平成19年度

【主 催】美幌観光物産協会

【販売場所】JR美幌駅隣の物産館ぼっぽ屋、各種イベント販売会場 他

【販売価格】おかずみそ：1瓶各 ¥350、まめ美人：1個¥500



▲おかずみそ(7種類)



▲まめ美人(手づくりみそ)



▲物産館ぼっぽ屋販売状況

東オホーツクシニックバイウェイ

H-33

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『うとろマーケットと「みち」のイベント』

【内 容】道の駅・シリエトクの空いているスペースの有効活用を目的として、東オホーツクシニックバイウェイ連携会議でのウトロエリアの登録団体と連携して、様々な取組み(活動)を地域の方々に知ってもらうために手作り品、アイヌ文化の紹介とその関連商品を仮設テントで販売した。また、個々の活動をパネルで紹介した。

【日 時】平成19年9月15日(土) 10:00~14:00

【場 所】道の駅「うとろ・シリエトク」隣接スペース

【主 催】うとろナチュラルクラブ

【協 力】しれとこウトロ・フォーラム21、ケロケロくらぶ、NPO法人みさきの風、ユートピア知床(株)、斜里町役場観光課

【参加人数】スタッフ16名、参加者約350名



▲試食の様子



▲仮設テントの販売状況



▲手づくり商品(アイヌのコーナー)

東オホーツクシニックバイウェイ

H-34

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『美幌YEG地域塾』

【内 容】美幌YEGでは、豊かで住みよい郷土づくりに貢献するため、「地域を育てる」人材を目指し、コミュニティの創造・確立するとともに次世代を担う人材の育成を目的として地域塾のような様々な活動を行っている。そこで、次世代を担う子供たちに美幌町の自然を体験してもらうために森林管理協議会(FSC)森林認証されている森の見学や清流日本一の美幌川、美幌の農作物を収穫などを体験した。

【日 時】平成19年9月9日(日) 9:00~

【場 所】美幌町福住

【主 催】美幌商工会議所青年部

【協 力】美幌町役場、美幌観光物産協会

【参加人数】25名



▲FSC森林認証された森の散策



▲収穫体験の様子

東オホーツクシニックバイウェイ

H-35

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『オリジナルグッズの製作・試験販売』

【内 容】東オホーツク地域の特徴あるオリジナル商品を試験的に製作及び販売し地域の特徴ある特産品開発を目指すとともに、コミュニティビジネスの創出を研究するためにシニックバイウェイ事業の認知度の向上、地域景観を生かしたオリジナル商品による地域のPR、フォトコンテスト等関連事業への波及効果などを考慮して、オリジナル切手の試験製作及び販売を行った。オリジナル切手は、全6種類各シート¥600で販売を行った。

【日 時】平成19年度中

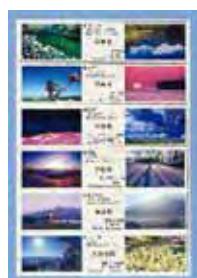
【場 所】販売窓口：清里町 清里町商工会

【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議

【参加人数】販売数200シート



▲入賞作品切手シート(表)



▲入賞作品切手シート(裏)

東オホーツクシニックバイウェイ

H-36

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『第3回 みどりの村野鳥の森づくり』

【内 容】台風などの自然災害より美幌みどりの村の森林が被害を受けています。そこで森林の再生を目的としてカツラ・ナカマド・コブシ・エンジュ・ホオノキの広葉樹50本を植樹した。これまでと合わせると300本になり、さらに15種類もの木を植えていることから、数年後には多様な雑木林に成長するものと予想されます。また、育樹として、自然に発生しているシラカバ等の稚幼樹の回りの草やササを刈払い、天然木も育てる試みも行った。今後の植樹については、節目をつけて、育樹作業を行っていく予定である。

【日 時】平成19年6月3日(日)

【場 所】美幌みどりの村森林公園

【主 催】ふるさと美幌の自然と語る会

【協 力】美幌博物館

【参加人数】30名



▲植樹状況



▲育樹のための下草刈

東オホーツクシニックバイウェイ

H-37

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『森の再生と拡張作業(第26回オホーツクの村祭り)』

【内 容】(財)小清水自然と語る会(オホーツクの村)では、山林原野を購入し、全国から村民を募集、ナショナルトラスト運動(自然環境等保護運動)を展開し、美しい自然を守ることを目的として、当財団が所有する採草地に植林を行った。アカエゾマツ、ナナカマド、ハルニレの苗木を提供して頂き、6月に会員50名で約30アール(約1000坪)に植林を行った。さらに8月には、生育をよくするために下草刈も行った。

【日 時】植林：平成19年6月9日(土)、下草刈：平成19年8月18日(土)

【場 所】オホーツクの村採草地

【主 催】(財)小清水自然と語る会

【参加人数】植林：50名、下草刈：40名



▲苗木の運搬



▲採草地に苗木を植栽

東オホーツクシニックバイウェイ

H-38

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『林-ツク地域活性化セミナー、スウェーデンに学ぶ地域活性化』

【内 容】オホーツク地域における活性化についてスウェーデン及び国内大学の講師を招聘し、東オホーツクシニックバイウェイルート沿線地域を視察し、今後のオホーツク地域活性化をテーマとしたセミナーを開催スウェーデンで実施している地域活動についての報告や東オホーツクシニックバイウェイを含めてのパネルディスカッションの開催した。

【日 時】平成19年8月17日～19日

【場 所】視察ツアー(東オホーツクシニックバイウェイルート)、セミナー(網走セントラルホテル)

【主 催】オホーツク地域活性化セミナー実行委員会、オホーツク21世紀を考える会

【協 力】MARG(過疎地域研究会)、東オホーツクシニックバイウェイ連携会議、網走商工会議所、網走青年会議所、美幌青年会議所、網走開発建設部、網走支庁、網走市

【参加人数】120名



▲東オホーツク圏域の視察



▲セミナーの開催

東オホーツクシニックバイウェイ

H-39

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『ウォーキングコースの看板整備』

【内 容】豊かな自然を感じながら、美しい景観を再発見する。田園風景を眺めながら健康を高めるとともに参加者との交流親睦を深める。斜里岳散策路の整備(草刈・看板設置)、田園の散歩路の整備(ゴミ拾い・看板設置)を行い、ウォーキングイベント開催(縁・清里・札弦)した。

【日 時】整備：平成19年5月13日(整備)、6月下旬(草刈)

イベント：平成19年 5/27、6/13、7/22、10/11、10/20

【場 所】清里パノラマの丘コース、札弦牧場の丘コース、縁清流の谷コース、

斜里岳原生林ウォーキングコース

【主 催】清里町ウォーキング同好会・清里町花と緑と交流のまちづくり委員会・清里町ほか

【参加人数】延べ200人



▲景観を楽しみながらウォーキング



▲ゴミ拾いや看板設置する参加者

東オホーツクシニックバイウェイ

H-40

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『美幌峠牧場内ウォーク』

【内 容】美幌峠の自然を感じながら、ウォーキングを通じて美しい景観を再発見し、健康を高めるとともに参加者との交流親睦を深めることを目的として、ウォーキングを開催した。

当日は、濃霧であり、湖西山も見えない状況でしたが、次第に霧が晴れて明るくなり避難連絡通路からみえるダテカンバ並木が幻想的な自然を演出してくれました。普段は通行規制がかかっているので、イベントなどでしかウォーキングを楽しめません。

【日 時】平成19年7月8日(日)

【場 所】美幌峠湖西山外輪周辺

【主 催】東オホーツク美幌あるこう会、美幌観光物産協会

【協 力】北見歩こう会、オホーツク観光連盟、美幌町観光課

【参加人数】70名



▲美幌峠の美幌方面の景観



▲ダテカンバ並木

東オホーツクシニックバイウェイ

H-41

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『東オホーツクシニックバイウェイかわらばん』

【内 容】東オホーツクシニックバイウェイの情報発信の円滑化と活動を行っている活動の周知を図るために毎月1回、東オホーツクシニックバイウェイかわらばんを発行している。平成19年8月を第1号として、現在も継続して発行している。

【日 時】毎月20日に発行

【場 所】東オホーツク全域

【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議



▲かわらばんNo.1



▲かわらばんNo.2



▲かわらばんNo.3

東オホーツクシニックバイウェイ

H-42

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『ネットワークカメラ設置によるオホーツク海・知床連山等の情報発信』

【内 容】網走市内丘陵地(天都山)に位置するキャンプ場「てんとらんど」の管理棟へネットワークカメラを設置しオホーツク海・知床連山そして農村風景の映像をホームページより全国へ向けて発信し、前年度と比べ1.5倍のアクセス数となった。

【日 時】平成19年8月12日(木)

【場 所】オートキャンプ場センターロッジ(管理棟)事務所内

【主 催】道立オホーツク公園

【参加人数】HPアクセス数(8~10月)：約10,000件



▲オートキャンプ場内



▲「てんとらんど」からの朝日

東オホーツクシニックバイウェイ

H-43

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『世界自然遺産・知床のインターネットラジオ局』

【内 容】世界的にも貴重な知床自然保護地域や、その周辺の自然情報やエコツーリズムを提案することにより、地域模範の環境意識の啓発に寄与することを目的として、コンテンツのボッドキャスティング化を順次推進している。

【日 時】平成19年度中(継続中)

【場 所】斜里町ウトロ

【主 催】Radio Kisar

【Radio Kisarコンテンツ】一部ご紹介

【Radio Kisar】



『http://kisar.jp/hal/index.html』

【SlowDriving !】



『http://kisar.jp/...』

【知床にハルがきた！】



『http://kisar.jp/hal/index.html』

Radio Kisarのメインページです。様々なコンテンツが紹介されています。

春夏秋冬と知床の素敵な風景をドライブで巡るプログラム。楽しい場所やお店の紹介をしています。

知床出身、「知床音楽大使」にも任命されているバンド『雷鼓』のボーカル・ギター担当のハル君が地元知床の良さを伝えています。

東オホーツクシニックバイウェイ

H-44

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『東オホーツクシニックバイウェイフォーラム』

【内 容】地域に向けた東オホーツクルートの取組みの紹介や活動団体間の情報の共有を目的として、東オホーツクシニックバイウェイフォーラムを開催し、登録活動団体の活動を報告することで、地域に東オホーツクルートの周知を図り、活動意識の向上と登録活動団体間の連帯感を図るためにフォーラムを開催した。

【日 時】平成2月23日(土) 15:00~17:15

【場 所】清里町コミュニティーセンター 2F

【主 催】東オホーツクシニックバイウェイ連携会議

【協 力】北海道開発局網走開発建設部(後援)、東オホーツク行政連絡会議(後援)

【参加人数】80名



▲フォーラムの参加者



▲口頭発表の様子



▲活動報告パネルを閲覧する参加者

東オホーツクシニックバイウェイ

H-45

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『のんびり踊ってやつたるDAY盆踊りカーニバル』

【内 容】地域内における商工業の総合的な改善発展を図り、あわせて社会一般の福祉の増進に資し、国民経済の健全な発展に寄与することを目的として、青年部が主催する夏のイベントとして昼間は子供を対象としたアトラクションを行い、夜は大人を対象としたビールパーティーとアトラクションを行った。

【主 催】小清水町商工会青年部

【日 時】平成19年8月4日 14:00~

【場 所】小清水小学校

【参加人数】約400名



▲雨の中来場者で賑わうテント



▲盆踊りに参加する子供たち

東オホーツクシニックバイウェイ

H-46

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『版画カレンダーの作成』

【内 容】本活動は、子ども達が活気溢れる学校生活を表現した版画作品をカレンダーにつづり、町民に元気を届けようと5年前から実施しており、子ども達は10月から、下絵を版木に描き、彫刻刀で彫り上げた。その後、日付を印刷し、日曜日や祝日に朱色を着色。11月に本刷りし、製本して70冊を完成させた。

版画は、給食時間にパンを配る様子やスキーを滑らせる様子など、元気な子ども達の姿が描かれている。

【日 時】平成19年11月17日(土)

【場 所】東藻琴消防カルチャーセンター

【主 催】まちづくりネットワークプロジェクトN5

【参加人数】28名



▲版画作成の様子



▲完成したカレンダー

東オホーツクシニックバイウェイ

H-47

HIGASHI-OKHOTSK SCENIC BYWAY

『エキノコックス撲滅作戦』

【内 容】エキノコックス撲滅により住民の健康と農産物のクリーンイメージを計ることを目的として、キタキツネに寄生するエキノコックス原虫を駆除するため、駆虫剤入りベイトを町内約400ヶ所に散布した結果、北海道大学獣医学部の協力を得て、キタキツネの糞を採取して調べる検体検査では、劇的な効果を挙げた。

【主 催】(財)小清水自然と語る会

【協 力】北海道大学獣医学部寄生虫学教室

【日 時】平成19年 5月、8月、9月、11月(年4回の散布)

【場 所】小清水町内一円

【参加人数】50名(会員及び町民ボランティア)



▲駆虫剤入りベイト



▲キタキツネの検体(糞)採取

1. ルート運営活動計画に関する地域の報告

- ・地域活動に関する報告(東オホーツクシニックバイウェイ)

ルート名称: 東オホーツクシニックバイウェイ	報告者: 東オホーツクシニックバイウェイ 代表 高谷弘志	報告年月: 2008/3/31
------------------------	------------------------------	-----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
18 オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる (美しい沿道の保全・啓蒙) 景観形成	沿道の一斉清掃活動の実施	H - 1	小清水原生花園ゴミ拾い事業	小清水町観光協会	4月14日(土)	40	ゴミ清掃活動を行い小清水原生花園の来訪者へのイメージアップを図ることを目的として、清水町観光協会、小清水町観光ボランティアガイド協議会、浜小清水連合自治会が協力して小清水原生花園周辺のゴミ拾いを行った。次年度以降も引き続き取り組みを行う。	
		H - 2	網走湖クリーン作戦	網走市観光協会	4月28日(土)	160	道東観光の拠点網走の玄関口である網走湖沿いの国道39号線周辺の清掃を行い観光客へのホスピタリティ及び網走湖周辺の景観向上を図ることを目的として、呼人探鳥遊歩道の入口から大曲の駐車場までの清掃を行った。次年度以降も引き続き取り組みを行う。	
		H - 3	道道斜里網走通り環境美化運動	斜里町商工会	10月14日(日)	18	斜里町の市中心市街地商店街のイメージアップ及びクリーンな街づくりの実践をはかるとともに中心街の環境美化やマナーの大切さに気づいていただくことを目的に清掃活動を行った。次年度以降も引き続き取り組みを行う。	
		H - 4	清里地区沿道清掃	東オホーツクシニックバイウェイ連携会議	5月13日(土)	151	東オホーツクシニックバイウェイ活動団体の連携強化及び、景観保全への意識啓発を目的として、清里町で参加している活動団体を中心となり、清里町市街(道道摩周湖斜里線)の空き缶拾いと、道路清掃を行った。活動団体の参加が少ないことが課題になっている。	
		H - 5	網走湖清掃活動	中村工務店野外活動俱楽部	9月29日(土)	14	東オホーツクシニックバイウェイ活動団体の連携強化及び、環境保全への意識啓発を目的として、網走湖女満別湖畔キャンプ場周辺のゴミを收拾した。大型のゴミの撤去をどのように処理するかが課題。	
	沿道の植栽活動の実施	H - 6	ウトロ沿道に花を植えよう	うとろ・フォーラム21	6月9、10日(土、日)	130	うとろナチュラルクラブと地域住民の方が、国道334号ウトロ市街の植樹スペースに花の苗を植え、知床の玄関となるウトロの市街地の景観を向上させる。訪問客に対して好評だった。次年度以降も引き続き取り組みを行う。	
		H - 7	花と緑と交流のまちづくり事業	清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	平成19年度中	5,000	花と緑、美しい豊かな自然、農村景観を生かしたまちづくりを行い、清里町の町民(会員)が周囲の環境を再評価し、景観づくりに積極的に関わっている。また、各方面からの表彰を受けている。次年度以降も引き続き取り組みを行う。	
		H - 8	コスモスロードの植栽・管理	上斜里フラワーロード推進協議会	5月～10月	20	清里町上斜里地区の道道摩周湖斜里線の沿道約3kmにわたってコスモスを植栽している。今年は国道334号の清里町と斜里町の境界付近から600mに植栽、秋の風物詩としてテレビや新聞などでも取り上げられ、日本百名山のひとつでもある斜里岳と、沿道にゆれるコスモスのコントラストは、一見の価値ある景観となっている。維持管理が今後の課題。	
		H - 9	じゃがいも街道 美しい沿道の保全・啓蒙	NPO法人 グラウンドワークこしみず	6月11日(月) 6月12日(火) 10月26日(金)	13	活動団体の連携強化を基に、豊かな土地と美しい景観を形成保全し、子どもたちに誇れるふるさとを引き継いでいくことを目的として、シニックバイウェイルート上のじゃがいも街道の緑のネットワークづくりとしてフラワーガーデンの造成を行った。次年度は、町民への呼びかけを積極的に行う。	

ルート名称:東オホーツクシニッカバイウェイ	報告者:東オホーツクシニッカバイウェイ 代表 高谷弘志	報告年月:2008/3/31
-----------------------	-----------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
鮮明な四季の色彩を見せる(花の沿道の創出・連携や植物群生の保全)		H - 10	ノンキー花い～っぱい地域景観形成	大空町東藻琴商工会	6月3日(日)	12	美しい景観形成及び活力ある地域づくりを主眼として、空地を利用した花壇づくり(植栽活動)に取り組み、沿道や道路周辺の景観の向上を図った。維持管理を行うために自治会に積極的に働きかける。	「知床」の玄関口として、おもてなしの心をもった植栽・清掃活動を実施。これらの活動は規模が拡大している傾向になってきている。また、自治体をはじめとする活動団体以外の機関とも連携も行っており、今後も継続した取り組みしていくためのサポート及び活動のPRをかねたエリア・ルートでの活発な連携や情報発信などを推進していく。
		H - 11	北海道デスティネーションキャンペーンの参加	北海道東藻琴高校	6月上旬～8月下旬	21	6月下旬～8月末までの期間、3年生の選択授業の一環として「北海道デスティネーションキャンペーン」に参加し、網走駅周辺をプランターに植えた花で飾った。期間中は、4、5回の花の手入れを行った。次年度以降も引き続き取り組みを行う。	
		網走湖周辺の水芭蕉の保全活動	呼人水芭蕉群生地の保全	網走湖・水と緑の会	4月	40	網走湖周辺の貴重な自然の価値を認識し、自然環境の保全と修復を図り、自然との調和を目指した文化を育み創造することを目的として、保全地林内整備、植樹、風倒木整理、水芭蕉写真展などを行っている。	
		H - 12	花を見る木道づくりの推進	桜の名所づくりと概存の植栽地の維持管理	桜の名所を創る会	5月13日(日)	67	桜の植樹を行うことにより、自然豊かな緑の森・環境が整い景観の場、町民の散策・憩いの場、地域連携の場が創出できた。植栽場所の選定と苗木費用の捻出が課題。
		H - 13	東オホーツク花カレンダーの作成	東オホーツクシニッカバイウェイMAP Vol.5	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	平成19年10月～平成20年3月		東オホーツクの魅力を多くの方に広めるため「美しい景観・美味しい店・癒しの温泉」情報を発信する。今後、道の駅、観光施設、宿泊施設で配布する予定。
			東オホーツク花シンポジウムの実施	-	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	-	今後、東オホーツク花シンポジウムを開催の再検討及び代替内容(花情報の発信方法など)の検討を行う。	
		H - 14	★女満別湖畔清掃	NPO法人 めまんべつ観光協会	4月25日(水)	250	網走湖及び女満別周辺地域が持つ自然、景観、文化などの様々な地域資源の価値を結び、それらを生かした観光まちづくり事業を推進し、観光の振興を通して、本地域の活性化に寄与することを目的として、女満別湖畔に来て頂く観光客、地元の皆さんのために、女満別湖畔の清掃業務(環境保全)をした。10トントラック8台分の流木、ゴミを集めし搬出しました。次年度以降も引き続き取り組みを行う。	
		H - 22	藻琴川の清掃	藻琴川を美しくする会	8月6日(月)	45	故郷の川を大切にすることを目的にし、毎年8月の初めに、藻琴川の清掃を行うボランティア活動であり12年間継続されている。メンバーの高齢化があり、若手メンバーの参加が課題。	
	景観探しツアーの実施	H - 15	ビューポイント探しバスツアー	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	2月2日(土)	20	冬のビューポイントの発掘と景観に関する情報を東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議のメンバーで共有するために皆様とバスに乗って冬のビューポイントを見学し、見学終了後は、意見交換も行った。活動団体の参加が少ない。景観に対する意識向上が課題。	
		H - 16	東オホーツク撮影ツアー	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	2月16日(土) 2月17日(日)	11	東オホーツク撮影ツアーが開催された。北見や釧路、弟子屈町などから11人の参加があった。雪が降っても映える景観をポイントに選び、参加者の皆さんに冬の東オホーツクの撮影を行った。参加自己負担が大きく、大人数での参加が困難。	
		H - 17	第3回東オホーツクシニッカバイウェイフォトコンテスト	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	平成19年8月～平成20年3月	応募点数441点 審査約20名	東オホーツクの風景・人物など地域の特色ある写真を広く募集し、写真による交流人口の増加と文化の向上、シニッカバイウェイ事業への積極的な活動へつなげる。発生する経費が大きく、資金繰りが次年度の課題。	

ルート名称:東オホーツクシニッカバイウェイ	報告者:東オホーツクシニッカバイウェイ 代表 高谷弘志	報告年月:2008/3/31
-----------------------	-----------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
景観形成 ビューポイントを再発見・創出する		H - 18	第2回東オホーツクシニッカバイウェイフォトコンテスト入賞作品写真展	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	平成19年4月28日～平成20年3月中旬	500人以上	シニックバイウェイ事業への積極的な活動へつなげるために第2回東オホーツクシニッカバイウェイフォトコンテストで入賞した作品を各会場で展覧した。展示会では地域の多くの皆様に東オホーツクの魅力を再発見、来訪者にも好評だった。次年度も継続予定。	
	ビューポイントの再発見及び創出とビューポイントマップづくり	H - 15	ビューポイント探しバスツアー	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	2月2日(土)	20	冬のビューポイントの発掘と景観に関する情報を東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議のメンバーで共有するために皆様とバスに乗って冬のビューポイントを見学し。見学終了後は、意見交換も行った。活動団体の参加が少ない。景観に対する意識向上が課題。	
	ビューポイントパークリングの拡充と保全		-	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	-	-	オホーツク海の流水、知床連山等オホーツクらしい景観を有している国道244号網走市鱒浦において、ビューポイントパークリングを整備するワークショップを開催され、活動団体のメンバーが参加し、駐車帯の場所、構造、設置するゆとり空間、モニュメント、名称等について検討などを行っている。今後は、シニックデッキの設置の検討などを行う予定。	
		H - 19	★廃屋が景観に及ぼす影響調査	NPO法人 イッショ移住オホーツク	平成19年7月～平成20年2月	8	東オホーツクシニッカバイウェイステージ上にある廃屋数や周辺の地域資源の把握を行うとともに地域の方々及び観光客の視点による廃屋の印象などを調査し、廃屋の活用方法に関する検討を行った。	

ルート名称:東オホーツクシニッカバイウェイ	報告者:東オホーツクシニッカバイウェイ 代表 高谷弘志	報告年月:2008/3/31
-----------------------	-----------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
観光振興 風を感じさせるマグネットポイントの創出	シニックデッキの創出	H - 20	シニックデッキの設置及び補修	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	5月～10月		デッキに関しては、観光客はもとより、地域住民の方からの支持が高く、継続的な設置の要望があり実施した。	お勧め景観ポイントや東オホーツクの自然を活かした活動を実施。今後も魅力的なメニュー提供を行うため、シニック活動への参加を行うなど地域との交流を深める。また、好評であった連携活動は、継続的な実施へ向け運営体制等を検討するとともに、地元の参加が多くなるような情報発信等、効果的な連携のかたちを模索していく。
	流水茶屋、湖畔茶屋、山の茶屋の創出	H - 21	東オホーツクシニッカバイウェイシニックデッキの利活用	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	9月9日(日)	600人以上	シニックデッキの利活用を目的として、地域の特産物や地域固有の情報を詰込んだチラシを提供し、景観の優れた沿道にシニックデッキ及び仮設の茶屋を設置し、地元新鮮野菜の販売などを行い、旅行者、地域の方々との交流の拡大を行った。次年度も取り組む予定。	
	サケ・サクラマスを見れる拠点の創出や清掃	H - 22	藻琴川の清掃	藻琴川を美しくする会	8月6日(月)	45	故郷の川を大切にすることを目的にし、毎年8月の初めに、藻琴川の清掃を行うボランティア活動であり12年間継続されている。メンバーの高齢化があり、若手メンバーの参加が課題。	
各地毎の滞在メニューの創出・連携	東オホーツクウォーキングルートの選定とフットバスづくり	H - 23	生物生産学体験学習	東京農業大学生物産業学部	10月13日(土)	120	学生たちとトレール周辺の人工林を拠点にして、どのようにして木々を取り扱えば、様々な生き物が暮らせる豊かな森に誘導していくかを体験学習(講義)を行った。今回は、授業の一環でもあり、市民の参加はなかった。	
	ホーストレッキングルートの選定	H - 24	オホーツクホーストレッキング in網走2007	オホーツク・ホーストレッキング研究会	6月30日(土)	20	ホーストレッキングイベントを2日間開催し、初心者コース・上級者コースを設定し、参加者の希望に合わせた乗馬体験会を実施した。また、前夜祭は野外バーベキューを開催し、参加者による交流も行った。貸し出す馬の経費が大きく、年に何度も開催できないことが課題。	
	エコツアーの連携や自然探索ツーの実施	H - 25	冬の神の子池かんじきツアー	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	平成19年2月19日(日)	70	地域の関係活動団体が連携し、道道1115号線、摩周湖斜里線入り口から神の子池まで、かんじきウォーキングを実施する。この事業により地の観光資源開発と今後の体験観光の創出を目指す。単独では経費が大きくなるので、他のイベントの組み合わせを検討する予定。	
		H - 26	斜里岳山麓原生林の森の中ツリーリング(木登り)を楽しもう	きよさと観光協会	9月30日(日)	15	新たな体験型イベントになる可能性が出てきた。今回、料金は無料だが用具、準備作業及びインストラクターの養成を考えるとコストがかかってしまう。	
		H - 27	★知床ファンタジア2008	知床斜里町観光協会	2月5日(火)～3月22日(土)	延べ80,000人	昭和33年2月に実際に知床の夜空を赤く染めたオーロラ。ダイナミックな音響とレーザー光線が織りなす幻想空間を体感させてくれる。当実行委員会では会場出口で感動証明書を発行、帰り道には甘酒のサービスもあります。	
東オホーツク型観光の研究	馬やバルーン景観の研究	H - 24	オホーツクホーストレッキング in網走2007	オホーツク・ホーストレッキング研究会	6月30日(土)	20	ホーストレッキングイベントを2日間開催し、初心者コース・上級者コースを設定し、参加者の希望に合わせた乗馬体験会を実施した。また、前夜祭は野外バーベキューを開催し、参加者による交流も行った。貸し出す馬の経費が大きく、年に何度も開催できないことが課題。	
	東オホーツクトラベルの研究	H - 28	OKI TONKORI「MOUNTAIN-HIGH TOUR'07」の開催	NPO法人 知床ナチュラリスト協会	11月3日(金)～4日(土)	45	アイヌ民族の伝統楽器トンコリの演奏を聴き、音楽を通じて北海道に先住していたアイヌ民族の歴史や文化に触れることを目的として、トンコリ演奏の第一人者であるOKI(加納沖)によるソロ・トンコリライブを行った。次年度も取り組む予定。	
	東オホーツク観光塾の創出		-	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	-	-	今後、東オホーツク観光塾の創出の再検討及び代替内容の検討を行う。	
	東オホーツクエリアガイドの育成と仕組みづくり		-	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議	-	-	今後、東オホーツクエリアガイドお育成と仕組みづくりの再検討及び代替内容(育成方法のシステムの構築など)の検討を行う。	

ルート名称:東オホーツクシニックバイウェイ	報告者:東オホーツクシニックバイウェイ 代表 高谷弘志	報告年月:2008/3/31
-----------------------	-----------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
		H - 29	★2007観光ホスピタリティin美幌	美幌観光ボランティアガイドの会	10月15日(月) ～16日(火)	210	全道の観光ボランティアガイドの方々が一同に集い、それぞれの地域紹介や活動を通して、観光客に対しどのようにおもてなしの心を伝えているか、工夫している事例等の情報交換を行い、各地域の活動にいかしていくことで、北海道全体の観光振興に寄与していくことを目的としている。	
		H - 30	★小清水原生花園 フラワーガイド事業	小清水観光 ボランティアガイド協議会	6月15日(金)～ 7月15日(日)	17	冬季間を除き5月～10月までフラワーガイドを行うが、集中期間は花の一一番盛んな6月15日～7月15日としている。フラワーガイドは不特定多数を対象として行っており、常時3名体制でボランティアガイドを行っており、観光客からは好評を得ている。人的資源の確保が課題。	

ルート名称:東オホーツクシニックバイウェイ	報告者:東オホーツクシニックバイウェイ 代表 高谷弘志	報告年月:2008/3/31
-----------------------	-----------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
農・水・林・地域文化資源の発掘と連携 地域づくり	地域特産物の販売やPR活動	H - 31	大空タウンマップの作成	大空町女満別商工会	平成19年度中		地域づくりに対する一層の気運の高揚と街の魅力を地域の内外に発信・PRすることを目的として、大空町女満別商工会と大空町東藻琴商工会が連携して、地域の情報を盛り込んだタウンマップを作成した。助成金等がないと継続できないことが課題。	各地域ごとに、歴史、自然、食など地域資源の保全・活用の取り組みを進めてまいります。今後は、
		H - 32	特産品の開発及び販売	美幌観光物産協会	平成19年度中		美幌観光物産協会の手づくりみそを使った「おかげみそ」が特産品として開発された。このおかげみそは、当協会が製造・販売する美幌産大豆100%の手づくりみそ「まめ美人」をベースに使い、の5種類の味に加え、「行者にんにく」「ふきのとう」がさらに新登場した。	
		H - 33	うとろマーケットと「みち」のイベント	うとろナチュラルクラブ	9月15日(土)	350	道の駅・シリエトクの空いているスペースの有効活用を目的として、様々な取組み(活動)を地域の方々に知ってもらうために手作り品、アイヌ文化の紹介とその関連商品を仮設テントで販売した。また、個々の活動をパネルで紹介した。車からこのイベントの情報を伝えることが困難。	
		H - 34	美幌YEG地域塾	美幌商工会議所青年部	9月9日(日)	25	次世代を担う子供たちに美幌町の自然を体験してもらうために森林管理協議会(FSC)森林認証されている森の見学や清流日本一の美幌川、美幌の農作物を収穫などを体験した。	
		H - 35	オリジナルグッズの製作・試験販売	東オホーツクシニックバイウェイ連携会議	平成19年度中		地域景観を生かしたオリジナル商品による地域のPR、フォトコンテスト等関連事業への波及効果などを考慮して、オリジナル切手の試験製作及び販売を行った。オリジナル切手は、全6種類各シート¥600で販売を行った。前年度と違い、コストも抑えて作成した。どのように周知してもらうかが課題。	
	先住民族フォーラムの実施		-	-	-	-	フォーラムは行っていないが、アイヌ民族伝統楽器トンコリの演奏を聴き、音楽を通じて北海道に先住していたアイヌ民族の歴史や文化に触れるイベントなどは開催している。	
		H - 36	第3回 みどりの村野鳥の森づくり	ふるさと美幌の自然と語る会	6月3日(日)	30	台風などの自然災害より美幌みどりの村の森林が被害を受けています。そこで森林の再生を目的として広葉樹の植樹を行い、「みどりの村野鳥の森づくり」として自然豊かな森に復元に取り組んでいます。	
		H - 37	森の再生と拡張作業(第26回オホーツクの村祭り)	(財)小清水自然と語る会	6月9日(土) 8月18日(土)	6/9:50人 8/18:40人	(財)小清水自然と語る会(オホーツクの村)では、山林原野を購入し、全国から村民を募集、ナショナルトラスト運動(自然環境等保護運動)を開催し、美しい自然を守ることを目的として、財団が所有する採草地に植林を行った。アカエゾマツ、ナカラマツ、ハルニレの苗木を提供して頂き、6月に会員50名で約30アール(約1000坪)に植林を行った。次年度も行う予定。	
	温泉情報マップの作成 文化施設等との連携による文化発信 フットバスづくり オホーツクバーボンの研究	H - 13	東オホーツクシニックバイウェイMAP Vol.5	東オホーツクシニックバイウェイ連携会議	平成19年10月～平成20年3月		東オホーツクの魅力を多くの方に広めるため「美しい景観・美味しい店・癒しの温泉」情報を発信する。今後、道の駅、観光施設、宿泊施設で配布する予定。	
			-	東オホーツクシニックバイウェイ連携会議	-	-	文化施設と連携した形での情報発信について、今後、発信する情報の内容等について検討を行う。	
			-	東オホーツクシニックバイウェイ連携会議	-	-	各地域のウォーキングルート、フットバスの情報収集を行っており、今後、新たなフットバスの創出も考慮し、検討する。	
			-	東オホーツクシニックバイウェイ連携会議	-	-	今後の中長期的な取り組みとして、オホーツクバーボンまたはそれに類した商品の開発を行う。	

ルート名称:東オホーツクシニックバイウェイ	報告者:東オホーツクシニックバイウェイ 代表 高谷弘志	報告年月:2008/3/31
-----------------------	-----------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
楽しみの創出 (東オホーツク文化・ライフの追求)	外国人交流の実施と誘致	H - 38	オホーツク地域活性化セミナー、スウェーデンに学ぶ地域活性化	オホーツク21世紀を考える会	8月17日～19日	120	オホーツク地域における活性化についてスウェーデン及び国内大学の講師を招聘し、東オホーツクシニックバイウェイルート沿線地域を視察し、今後のオホーツク地域活性化をテーマとしたセミナーを開催した。	JRバス、ノーベル、エリア・ルートの魅力発掘と情報発信を行う。また、これらの取り組みを含め、地域ペシニックバイウェイの理解や認知の深まるような活動を企画・立案して取り組んでいく。
	オホーツクのオリジナル食メニューの研究		-	東オホーツクシニックバイウェイ連携会議	-	-	東オホーツクエリアの「食」について、リストアップができシニックマップVol.5の作成に生かすことができた。本年度は具体的な活動がなかった。今後は、リストなどを利用してメニューの企画などを検討する。	
		H - 39	★ウォーキングコースの看板整備	清里町ウォーキング同好会	5月13日(日)	延べ200人	豊かな自然を感じながら、美しい景観を再発見する。田園風景を眺めながら健康を高めるとともに参加者との交流親睦、散策路の整備やゴミ拾いなどの社会貢献も行っている。次年度も継続予定。	
		H - 40	★美幌峠牧場内ウォーク	東オホーツク 美幌あるこう会	7月8日(日)	70	初夏の美幌峠牧場周辺の散策路を1～2時間かけてウォーキングを行った。ウォーキング終了後は、湖西山(美幌峠牧場管理舎)で昼食をとった。今後は、観光メニューとして検討を重ねる予定。通常は使用できないコースなので、今後はウォーキングルートを確立することを検討。	

ルート名称:東オホーツクシニックバイウェイ	報告者:東オホーツクシニックバイウェイ 代表 高谷弘志	報告年月:2008/3/31
-----------------------	-----------------------------	----------------

基本方針	エリア計画活動内容	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
地域づくり 地域連携による 地域情報の発信	活動団体向けニュース ペーパーの発行 HPの創出と各町観光 情報とのリンク	H - 41	東オホーツクシニックバイウェイかわ らばんの発行	東オホーツクシニックバイウェイ 連携会議	平成19年8月～		東オホーツクシニックバイウェイの情報発信の円滑化と 活動が行っている活動の周知を図るために毎月1回、東 オホーツクシニックバイウェイかわらばんを発行してい る。平成19年8月を第1号として、現在も継続して発行して いる。掲載する情報などに優先順位などつけ、見やすい ペーパーを検討する。	
		H - 42	ネットワークカメラ設置によるオホーツク 海・知床連山等の情報発信	道立オホーツク公園	8月12日(木)		網走市内丘陵地(天都山)に位置するキャンプ場「てんとら んど」の管理棟へネットワークカメラを設置しオホーツク 海・知床連山そして農村風景の映像をホームページより 全国へ向けて発信し、前年度と比べ1.5倍のアクセス数と なった。次年度は別の場所にカメラを設置する予定。	
		H - 43	世界自然遺産・知床のインターネットラ ジオ局	Radio Kisar	随時		世界的にも貴重な知床自然保護地域や、その周辺の自 然情報やエコツーリズムを提案することにより、地域模範 の環境意識の啓発に寄与することを目的としています。	
		H - 44	★東オホーツク シニックバイウェイ フォーラム	東オホーツクシニックバイウェイ 連携会議	2月23日(土)	80	地域に向けた東オホーツクルートの取組みの紹介や活動 団体間の情報の共有を目的として、東オホーツクシニッ クバイウェイフォーラムを開催し、登録活動団体の活動を 報告することで、地域に東オホーツクルートの周知を図 り、活動意識の向上と登録活動団体間の連帯感を図るた めにフォーラムを開催した。活動団体の参加が少ないの で、次回は呼びかけを早めに行う。	
		H - 45	★のんで踊ってやったるDAY盆踊りカ一 ニバル	小清水町商工会青年部	8月4日(日)	400	青年部が主催する夏のイベントとして昼間は子供を対象 にしたアトラクションを行い、夜は大人を対象にしたビール パーティーとアトラクションを行った。	
		H - 46	★版画カレンダーの作成	まちづくりネットワークプロ ジェクトN5	11月17日(土)	28	本活動は、子ども達が活気溢れる学校生活を表現した版 画作品をカレンダーにつづり、市民に元気を届けようと5 年前から実施しており、今回で4回目となる。まちづくり ネットワークプロジェクトN5では、制作のサポートを行って いる。	
		H - 47	★エキノコックス撲滅作戦	(財)小清水自然と語る 会	5月～11月 の年4回	50	エキノコックス撲滅により住民の健康と農産物のクリーン イメージを計ることを目的として、キタキツネに寄生するエ キノコックス原虫を駆除するため、駆虫剤入りベイトを町 内約400ヶ所に散布した結果、劇的な効果を挙げた。他の エリアでも同様の実験が行えないか検討	

2. 行政の事業に関する報告(東オホーツクシニッカバイウェイ)

ルート名称: 東オホーツクシニッカバイウェイ	報告者: 網走開発建設部	報告年月: 2008/3/28	
------------------------	--------------	-----------------	--

基本方針	平成18年度の活動内容	実施機関	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	関連する活動団体
景観づくり オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる ビューポイントを再発見・創出する	メルヘンの丘ビューポイントパーキングの清掃	網走開発建設部 大空町	平成19年4月26日	55名	「メルヘンの丘」を訪れる多くの観光客などの方々に「気持ち良くな」オホーツクの自然景観を楽しんでもらえるように、道の駅「メルヘンの丘めまんべつ」及びメルヘンの丘ビューポイントパーキング周辺の道路について、本格的な観光シーズンに向けて地域住民とともに清掃活動を実施。	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議
景観づくり ビューポイントを再発見・創出する	東オホーツクシニッカバイウェイ フォトコンテストの共催・後援	【共催】網走開発建設部 【後援】網走支庁、網走市、大空町、清里町、小清水町、斜里町、美幌町	募集 平成19年7月 ～平成20年2月 審査 平成20年3月6日	応募総数 441点	東オホーツクの風景・人物など地域の特色ある写真を広く募集し、東オホーツクの魅力を発掘、発信、地域への交流人口の拡大とリピーターの増加、写真を通じての地域の紹介を目的としてコンテストを開催した。コンテストの賞として、網走開発建設部長賞、網走支庁賞、清里町長賞、地域賞(6市町村)等を選定。	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議
景観づくり ビューポイントを再発見・創出する	ビューポイントパーキング 東オホーツクワークショップの開催	網走開発建設部 (網走支庁・網走市が参加)	第5回WS 平成19年6月14日	約30名	オホーツク海の流水、知床連山等オホーツクらしい景観を有している国道244号網走市鰐浦において、ビューポイントパーキングを整備するにあたり、様々な立場の方々の参加を得てワークショップを開催し、駐車帯の場所、構造、設置するゆとり空間、モニュメント、名称等について検討地域の方々とワークショップを行なながら整備計画の立案を行った。	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議、網走観光協会
景観づくり ビューポイントを再発見・創出する	流水街道・鰐浦ビューポイントパーキングの完成植樹会	網走開発建設部 (網走支庁・網走市が参加)	完成植樹会 平成19年11月12日	約40名	一般国道244号鰐浦漁港付近(網走市)に完成した「流水街道・鰐浦ビューポイントパーキング」の完成を記念し、モニュメント(駐車場名称看板)の除幕式とハマナスの植樹を行った。	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議、網走観光協会
景観づくり オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる ビューポイントを再発見・創出する	知床・田園ステージ景観検討WSの実施	網走開発建設部	エリアWS 平成19年11月27日、11月29日、12月6日 全体WS 平成20年1月9日 平成20年2月27日	全体WS 約20名	知床・田園ステージを題材として、沿道景観の保全・活用方策の検討に向け、景観の現状や展開方策について意見交換を行った。結果は道路景観整備に向けた基礎資料とする他、ルート運営活動計画への反映や広域景観づくりに関する検討への活用も検討。	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議、網走観光協会
景観づくり オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる	ボランティアサポートプログラムによる道路植栽	網走開発建設部	平成19年6月10日	132名	知床の玄関口、ウトロの道路沿いに花を植え、美しい街並み景観の創出を図るため、網走開発建設部と地域の方々が協働し、花植えを実施。	知床・うとろフォーラム21

景観づくり	オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる 鮮明な四季の色彩を見せる	北浜法面原生花園化(きたはなプロジェクト)の実施	網走開発建設部 網走市	平成19年4月26日、7月5日、7月11日、7月19日、8月23日、9月23日、9月24日、12月13日	協議会メンバー約20名 種採り・種まき参加者約30名	国道244号網走市北浜の法面等に自生する原生花園的な植物の種子を採集して育苗、植栽することで、世界自然遺産である知床半島やラムサール条約登録湿地である壽沸湖、また小清水原生花園、以久科原生花園など、自然環境及び景観の優れた地域へのエントランスを創出し、市民や観光客に潤いのある良好な景観を形成する。また、本活動へ参加することで環境意識の向上、地域振興への支援を図る。 今年度は新たに地元小学校の総合学習との連携を図り、自然観察会や種採り・種まき等を行った。	グリーンシーズ、網走湖水と緑の会、オホーツク21世紀の会、網走観光協会、網走青年会議所
景観づくり	オホーツク海・斜里岳・知床連山・田園風景を美しく見せる	斜里～ウトロ間での除雪ボランティアの試行	網走開発建設部	平成20年2月28日、3月11日	約30名	知床観光のメインである流水シーズンにおいて、地域観光支援と冬期ボランティアサポートプログラム可能性検討、駐車場周辺における安全対策を目的に、駐車場が設置されている5箇所において、網走開発建設部と地域住民が協働し、歩道柵除雪及び歩道周辺の附帯除雪を実施	知床・うとろフォーラム21
景観づくり	ビューポイントを再発見・創出する	景観探しバスツアーと連携した道路景観診断の実施	網走開発建設部	平成20年2月2日	約20名	冬のビューポイントの発掘と景観に関する情報を東オホーツクシニックバイウェイ連携会議のメンバーと関係機関担当者で共有することを目的として、『冬の景観探しバスツアー』を行う。 また、この機会を活用し、沿道の案内標識やビューポイントパーキングを視察して、道路景観に関する診断調査を併せて行う。	東オホーツクシニックバイウェイ連携会議
地域づくり・観光振興	農・水・林・地域文化資源の発掘と連携 地域連携による地域情報の発信 風を感じさせるマグネットポイントの創出	斜里町峰浜ドライブイン跡地での道路・観光情報提供実験	網走開発建設部	平成19年8月14日	来場車両台数 311台	夏季の観光シーズンに混雑が目立つ知床五湖やオシンコシンの滝駐車場の混雑緩和を目的に、知床へのエントランスポイントである斜里町峰浜ドライブイン跡地において、知床観光に関する情報提供実験を行った。 情報提供は、駐車場の混雑状況及び近隣のビューポイントの紹介を、網走開発建設部職員と東オホーツクシニックバイウェイ連携会議メンバー等による「みちの案内人」がを行い、道路利用者の行動変化による分散化を図り、混雑の緩和を図った。併せて、斜里町商工会による焼き肉や飲み物の販売を実施した。	東オホーツクシニックバイウェイ連携会議 斜里町商工会
地域づくり・観光振興	地域連携による地域情報発信 各地毎の滞在メニューの創出・連携	ウトロ周辺での乗り換え促進実験	網走開発建設部 (斜里町が参加)	平成19年8月1日～9月30日	延べ利用者数 418名	夏期観光シーズンに知床周辺の観光地へ集中する自動車交通による交通混雑・渋滞や環境への悪影響を軽減するため、DRT(乗り合いタクシー)の実験運行し、併せて、啓発・情報提供による自家用車等からの乗り換え促進を行った。	知床斜里町観光協会、知床ガイド協議会(NPO Shinra 他所属)
地域づくり	地域連携による地域情報発信	東オホーツクシニックバイウェイフォーラムの後援	網走開発建設部 東オホーツク行政連絡会議	平成20年2月23日	80名	地域一般に向けた東オホーツクシニックバイウェイの取り組みの紹介、活動団体間の情報共有・活動意識の向上、活動団体と関係機関との連帯感を高めることを目的とし、開催された東オホーツクシニックバイウェイフォーラムを実施。網走開発建設部及び東オホーツク行政連絡会議名で後援。	東オホーツクシニックバイウェイ連携会議
地域づくり	地域連携による地域情報発信	びほろ冬まつりでのシニック活動PRパネル展示	美幌町	平成20年2月3日		東オホーツクシニックバイウェイの活動や取組みなどの更なる周知を図るため、びほろ冬まつりの会場にテントを設置、パネルを展示して、美幌エリアの活動や取組みを中心に紹介した。また、会場にて放送での呼びかけを行った。	美幌CBC、美幌観光ボランティアガイドの会

地域づくり	地域連携による地域情報発信	道路情報板での「東オホーツクシニックハイウェイ」表示	網走開発建設部	平成19年8月～10月	夏期観光シーズンに東オホーツクを訪れる観光客や地元の方に対し、シニックバイウェイルートであることを知っていただくことを目的に、シニックバイウェイルート沿線の道路情報板に「東オホーツクシニックハイウェイ」の表示を実施。 (交通規制等の実施日、イベント等実施日、悪天候時等はそれらの表示を優先)	
-------	---------------	----------------------------	---------	-------------	--	--

3. 地域及び行政の運営に関する報告

・東オホーツクシニッカバイウェイ

ルート名称:東オホーツクシニッカバイウェイ	報告者:東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議 代表 高谷弘志	報告年月:2008/3/31
-----------------------	---------------------------------	----------------

	基本方針		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
地域の運営に 関わる事項	総会の開催				■6月27日										
	幹事・事務局会議			■5月28日						■11月29日		■1月22日			
	役員会の開催											■1月15日			
	分科会の開催														
	NPO法人 東オホーツクシニッカバイウェイサポートセンター							■東オホーツクかわらばんの発行	全活動団体、行政連絡会議に毎月、配信・配布						→
参加人数				11	20					11		17			

ルート名称:東オホーツクシニッカバイウェイ	報告者:網走開発建設部	報告年月:2008/3/31
-----------------------	-------------	----------------

	基本方針		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政の運営に 関わる事項	行政連絡会議の実施								■10月12日 網走						

4. 審査委員会意見に関する報告

・東オホーツクシニッカバイウェイ

ルート名称: 東オホーツクシニッカバイウェイ	報告者: 東オホーツクシニッカバイウェイ 代表 高谷弘志 / 網走開発建設部	報告年月: 2007/3/31
------------------------	--	-----------------

		東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議の報告	東オホーツクシニッカバイウェイ行政連絡会議の報告	備考
シニック バイウェイ ルート全体 に対する意 見	景観への取り組み: 景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出	知床・田園ステージを題材として、沿道景観の保全・活用方策の検討に向け、景観の現状や展開方策について意見交換を行い、その結果を今後のルート運営活動計画への反映や広域景観づくりに関する検討にも使用する。また、地域の隠れたピューポイントをめぐる「冬の景観探しバスツアー」を継続的に実施して、景観意識の向上も図っている。	知床・田園ステージを題材として、沿道景観の保全・活用方策の結果などの情報を共有し、今後、景観の保全、向上(沿道景観も含む)に向けて、地域の活動団体の方々と継続的に検討を行っていく。	
	持続性の確保: 参加する各主体(国、道、市町村、活動団体、住民)による持続的な責任ある行動との活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用	NPO法人東オホーツクシニッカバイウェイサポートセンターが設立し、ルート運営におけるサポート(かわらばんの発行、情報発信等)が実施されたが、中長期的なルート運営を考えた場合、ルート運営活動計画に準じた組織的な仕組みの再構築の必要性がある。また、これから行う活動については、評価できるような項目(目的、マネジメント、成果(効果)、コストパフォーマンス)などを明確にして活動を展開していく。	行政連絡会議において、行政機関としての支援体制についての検討が行われ、今後各機関でシニックの普及に向けた取り組みを進めていくことになった。(広報PR支援等)	
	地域特性の活用: 北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性的充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保	流氷を守るトラスト運動の一環として、東オホーツク地域に植樹してもらう「旅人の木」を企画検討中であり、今後は、シニックの森構想などへの連携も併せて検討中。	-	
	ホスピタリティ向上: 研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成	外国人観光客の対応に向けて4ヶ国語対応のコミュニケーションボードを、来訪されるであろう箇所に配布、販売を継続的に行つた。	-	
	全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携	地域の魅力ある情報を発信するためのホームページのコンテンツを検討中。	各機関のホームページ、広報等の各種情報媒体を通じ、シニックの普及に向けた発信を進めていくことになった。	
	開かれた運営体制: 継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働	有識者を含めての登録団体の活動報告を中心としたフォーラムを開催し、連携意識の向上に努めた。また、一般の方々の参加も多数見られ、東オホーツクシニックバイウェイ連携会議の取組みや活動などを知る機会となった。	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議が主催するフォーラム、活動等に地域活動団体及び地域住民に広く声をかけることで、開かれた運営体制を目指した。	
	既存観光地からの脱却を目指し、歴史・文化・レクリエーションなど幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施	冬期には訪れることが困難な「神の子池」にかんじきを履いて訪れるツアー。普段使われない雪原を観光客に自由に使っていただく「大雪原をひとりじめ」という企画を継続して実施した。	-	

ルート名称:東オホーツクシニッカバイウェイ	報告者:東オホーツクシニッカバイウェイ 代表 高谷弘志 / 網走開発建設部	報告年月:2007/3/31
-----------------------	---------------------------------------	----------------

	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議の報告	東オホーツクシニッカバイウェイ行政連絡会議の報告	備考
東オホーツクシニッカバイウェイ	広域的な連携・協働を行う場合、当エリアに存在する農山村、漁村、観光地などの個性ある地域、資源、人材の連携には十分な議論と工夫が必要である。	地域の様々な活動団体との連携による、シニックデッキの利活用を図るために取組みを実施。地元の農産物の販売やデッキを巡るイベントなどを開催し、地域資源を活かすきっかけとなった。今後は、地域(地元)を加えて議論できる組織体制が必要と考えられる。	-
	参加団体が多いことから、ルート運営活動計画の趣旨を幅広く共有できる取り組みが必要である。	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議事務局で作成した「連携手引書」(ルート運営活動計画、名簿、規約、会議で決められた約束事などをとりまとめたファイル)を使用した会議の体制を検討している。	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議事務局で作成した「連携手引書」(ルート運営活動計画、名簿、規約、会議で決められた約束事などをとりまとめたファイル)を提供してもらい、連携会議の仕組みや取組み等の共有(認識)を図られるように取組んだ。
	現状における「運営体制」「関係団体数」「関係自治体」等の実態にあわせルート運営活動計画を見直すこと。	地域の様々な活動団体の活動を整理して、実態の状況も配慮して、景観形成、観光振興、地域づくりなどの柱に属するようなルート活動内容に修正し、それぞれの活動や事業の位置づけを明確にする考え。	東オホーツクシニッカバイウェイ連携会議事務局で作成した「連携手引書」(ルート運営活動計画、名簿、規約、会議で決められた約束事などをとりまとめたファイル)を提供してもらい、連携会議の仕組みや取組み等の共有(認識)を図られるように取組んだ。
	基幹となる道路に、地域住民、旅行客が共有できるような分かりやすい名称の検討が必要	各地域の特性などを整理し、ルート運営活動の変更を現在検討中。修正されたルート運営活動計画を基に地域住民、旅行客などに愛着を持たれるような名称の検討を再度行う考え。	-

5. 平成18年度活動報告への助言に対する状況報告

・東オホーツクシニックバイウェイ

ルート名称:東オホーツクシニックバイウェイ	報告者:東オホーツクシニックバイウェイ連携会議 代表 高谷弘志	報告年月:2008/3/31
-----------------------	---------------------------------	----------------

平成18年度活動報告への助言	平成19年度 状況報告			備考
助言 1	記載事項	現ルート運営計画	新規 記載事項	
①変動する社会情勢を踏まえつつ、ルート運営活動計画の更新を検討されたい。	市町名	女満別町、東藻琴村	大空町	
	活動団体数	36団体	47団体に変更	
	運営体制		NPO東オホーツクシニックバイウェイサポートセンターの追加	
	実施体制	代表:高谷弘志 副代表:藤崎達也 事務局長:奥山英明 事務局次長:山本勝栄	代表:高谷弘志 副代表:藤崎達也、神保貴彦 事務局長:奥山英明 事務局次長:山本勝栄、樺原功	
助言 2	今年度、行政連絡会議の開催、各機関への現状の取り組み・意識等に関するヒアリング調査を実施するとともに、担当者メーリングリストの再構築や「かわら版」を通じた活動団体・行政機関相互の活動情報やイベント情報等の提供を行っている。活動に対する行政機関担当者の参加、「かわら版」を活用した行政機関側の情報提供、自治体HP・広報での協力等も得られており、担当者の意識向上が徐々に図られてきている。今後、行政機関間の連携強化やより効果的な活動への支援策の検討が課題			